

現場レポート

ソウル事務所

「日韓交流おまつり 2022 in Seoul」で 日本の地域の魅力を発信!

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 糸原 叶恵(島根県派遣)

2005年、日韓国交正常化40年「日韓友情年」を機に始まった「日韓交流おまつり」は、今年で18回目を迎えました。日韓最大の草の根交流イベントとして、日韓両国のさらなる友好の増進を目的に多くの団体が参加し、伝統舞踊などのステージ公演や両国の文化を体験できる体験型のブース、地域の観光や特産品をPRするブースなどが出展し、会場を大いに盛り上げました。

日韓最大の草の根交流イベント

今年の日韓交流おまつりは「また、会える喜び」を テーマに、2022年9月25日にソウル特別市江南区の COEXで開催されました。3年ぶりのオフライン開催 ということで、日本に関心を持つ若者をはじめ、多くの 来場者で、会場を熱気に包みました。

午前 11 時。オープニング公演として、「日韓少年少女合唱団」の公演からスタートしました。ソウル市少年少女合唱団とソウル日本人学校合唱団の子どもたちが日本、韓国それぞれの楽曲と最後に合同曲を歌唱しました。会場はきれいな歌声に包まれながら幕を開けました。



日韓少年少女合唱団の公演

その後は、公式行事として、来賓紹介をはじめ開会宣言、祝辞が行われ、日本から河村建夫日韓親善協会中央 会会長、武田良太日韓議連幹事長、鶴保庸介参議院議員 が祝辞を述べられました。 午後からは、津軽三味線公演や百済味摩之タルチュム (仮面踊り) のほか、伝統舞踊や K-POP、J-POP などの 公演が続き、ステージを彩りました。

一方、各ブースでは企業や地方自治体のほか、着物や 浴衣の試着、日韓両国の伝統遊びなどを体験できるブー スが出展し、来場者は着物や浴衣、韓服を着ての写真撮 影などを楽しみました。また、日本からは青森県、宮城 県、鳥取県、福岡県、長崎県など 12 の自治体および関 係機関が出展し、自治体 PR はもちろんのこと、民芸品 製作体験や日本酒の試飲、クイズイベントやお楽しみ抽 選会など、多種多様なイベントを実施して PR 合戦を繰 り広げました。



自治体ブースの様子

クレアソウル事務所も自治体を PR

クレアソウル事務所のブースでは、韓国の方々に、日本の自治体に関心を持っていただくきっかけとなるよう、パンフレットやポスター、PR映像を使った広報のほか、日本の特産品が当たる抽選イベントを行い、日本全国の自治体 PR を展開しました。

今年は、新たな取り組みとして、47 都道府県の SNS などの情報を二次元バーコード化したチラシを作成した ほか、参加者がよりコアな情報を獲得できるようなクイズイベントを行いました。家族で参加される方も多く、



日本に詳しい親御さんが子どもたちに日本の都道府県に ついて説明している様子など微笑ましい姿も数多く見受 けられました。世代を問わず日本の自治体について関心 を持っていただく良いきっかけづくりとなりました。



クレアソウル事務所ブースでの抽選イベントの様子

JET 経験者がつなぐ日韓の地域間交流

日本の自治体や学校などにおいて外国語指導や国際交 流業務で活躍する海外の青年を受け入れる「JET プログ ラム」には、韓国からも多くの方々が参加しています。

今回のおまつりでは、JET プログラム経験者で構成さ れている団体である「JETAA 韓国支部」がブースを出 展し、JET プログラムの紹介などを行いました。活動写 真が掲載されたパネル展示や自身の日本での業務や日常 生活に関する体験談を交えながら来場者に JET プログ ラムや日本の魅力を発信しました。

ブースを訪れた方からは、JET の業務内容や受験に向 けた対策の仕方、日本での生活のコツなどに関する質問 が多数寄せられており、真剣な表情で JET 経験者の説 明に耳を傾けている様子が窺えました。



来場者に実体験を交えた説明を行う JET 経験者

JET プログラムは、まさに韓国を含む海外と日本との 地域間交流の架け橋。日韓交流おまつりは、そんな JET プログラムの役割について、韓国の多くの方々に知って いただく貴重な機会となりました。

また、会える喜び

ステージ公演では、日韓アーティストによるパフォー マンスが行われ、J-POP からは「煌めき☆アンフォレン ト」が、K-POP からは「TO1」が出演し、会場を大い に盛り上げました。

午後6時30分。ステージの出演陣のみならず一般の 観覧客をも巻き込んだ舞踊パフォーマンスが圧巻のフィ ナーレを飾り、今年の日韓交流おまつりは幕を下ろしま した。会場が一体となったフィナーレは、まさに本イベ ントのテーマでもある「また、会える喜び」に相応しい ものとなりました。

今年は、3年ぶりのオフライン開催でしたが、多くの 方がブースを訪れ、大盛況となりました。日本の自治体 担当者からは、「オフライン開催となり、観光だけでな く、物産に関しても来場された方々に知っていただく良 い機会となった|「日本との交流に対する期待感の高ま りを感じた」などの感想が寄せられました。

しかしながら、日韓の地域間交流がこれからも深く根 付いていくためには、この日韓交流おまつりに留まらず、 息の長い交流を継続していくことが必要です。クレアソ ウルでは、本イベントを一つのきっかけと捉え、今後も 様々な事業を通して日本の自治体の魅力発信と日韓の地 域間交流をサポートする取り組みを推進してまいります。

日本の自治体の皆さん、来年は是非、日韓交流おまつ りにブース出展してみませんか?

○ 「日韓交流おまつり in Seoul」 (クレアソウルホームページ) http://www.clair.or.kr/appeal/omatsuri/omatsuri.asp

